

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 07-011066
(43)Date of publication of application : 13.01.1995

(51)Int.CI. C08L 23/00
C08L 23/00
/(C08L 23/00
C08L 25:08
C08L 61:14)

(21)Application number : 05-212048 (71)Applicant : YASUHARA CHEM KK
(22)Date of filing : 28.06.1993 (72)Inventor : OHARA YASUNARI

(54) **METHOD FOR MODIFYING OLEFINIC RESIN**

(57)Abstract:

PURPOSE: To modify an olefinic resin into one capable of omitting a coating step and simply coating the surface at a low cost by comprising a specific amount of an aromatic modified terpene resin in the olefinic resin.

CONSTITUTION: An olefinic resin (e.g. ethylene, propylene or 1-butene) is modified by comprising an aromatic modified terpene resin (in an amount of 5-40wt.%, preferably 10-40wt.%) therein. Furthermore, the aromatic modified terpene resin is obtained by copolymerizing a terpenic monomer with an aromatic monomer in the presence of a Friedel-Crafts type catalyst in an organic solvent.

LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 26.08.1998
[Date of sending the examiner's decision of rejection] 10.07.2001
[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]
[Date of final disposal for application]
[Patent number]
[Date of registration]
[Number of appeal against examiner's decision of rejection]
[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]
[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2000 Japan Patent Office

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開実用新案公報 (U)

(11) 実用新案出願公開番号

実開平7-11066

(43) 公開日 平成7年(1995)2月14日

(51) Int.Cl.⁶

H 0 4 N 5/64

H 0 1 J 29/96

識別記号

5 5 1 Z 7205-5C

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 2 頁)

(21) 出願番号

実願平5-39462

(22) 出願日

平成5年(1993)7月20日

(71) 出願人 000006611

株式会社富士通ゼネラル

神奈川県川崎市高津区末長1116番地

(72) 考案者 平沢 隆

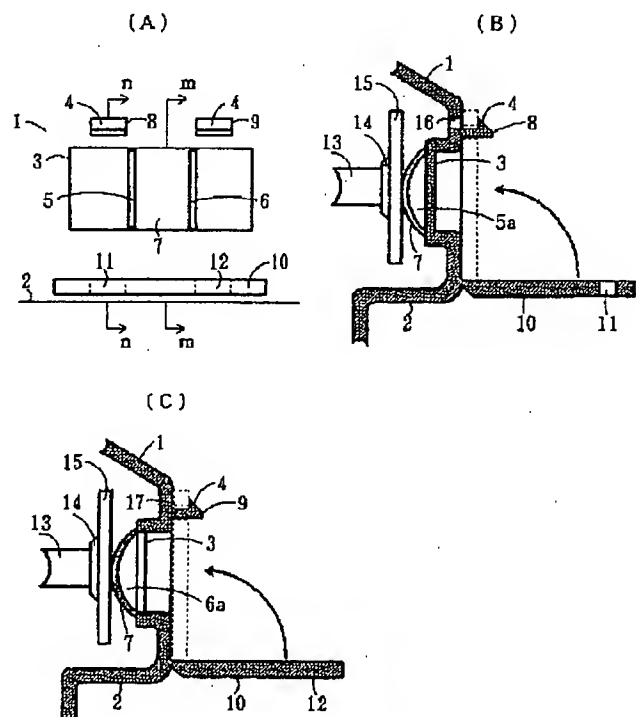
川崎市高津区末長1116番地 株式会社富士通ゼネラル内

(54) 【考案の名称】 CRTのネック基板の支持構造

(57) 【要約】

【目的】 バックカバーに突出部を一体にして設けて、同突出部でネック基板を支えるようにして、ネック基板の脱落を防止すると共に、同突出部を外部から保護できるようにしてバックカバーの強度を確保することを目的とする。

【構成】 ネック基板の取付部に面したバックカバー1の表面に所定の間隔と長さで、対にしてスリット5及び6を設け、スリット5及び6に挟まれた部分を薄肉形状に形成し、バックカバーの内部に突出部7として突出させ、スリット5及び6の長手方向の両端を挟んでバックカバー1の表面に、一方に嵌合用の突起部8及び9を設け、他方にスリット5及び6部を隠蔽可能な大きさの、嵌合用の開口11及び12を備えた蓋10を設けて、蓋10とバックカバー1との連結部を薄肉状に成型し、同部分を折り曲げて突起部8及び9に開口11及び12を嵌め込んで、スリット5及び6部を蓋10で覆うことを可能としたものである。



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項１】 ネック基板の取付部に面したバックカバーの表面に所定の間隔と長さで、対にして設けたスリットと、同スリットに挟まれた部分を薄肉形状に形成し、バックカバーの内部に突出させた突出部とからなるＣＲＴのネック基板の支持構造。

【請求項２】 前記スリットの長手方向の両端を挟んでバックカバーの表面に、一方に嵌合用の突起部を設け、他方に前記スリット部を隠蔽可能な大きさの、嵌合用の開口を備えた蓋を設けて、同蓋とバックカバーとの連結部を薄肉状に成型し、同部分を折り曲げて前記嵌合用の突起部に前記嵌合用の開口を嵌め込んで、前記スリット部を蓋で覆うことを可能としたことを特徴とする請求項１記載のＣＲＴのネック基板の支持構造。

【請求項３】 前記バックカバーの内部に突出させた突出部をアーチ状、あるいは略Ｕ字状等の形状に形成したことを特徴とする請求項１又は２記載のＣＲＴのネック基板の支持構造。

【図面の簡単な説明】

【図１】（Ａ）～（Ｃ）は本考案のＣＲＴのネック基板の支持構造の一実施例を示す説明図である。

【図２】本考案のＣＲＴのネック基板の支持構造のその他の実施例を示す説明図である。

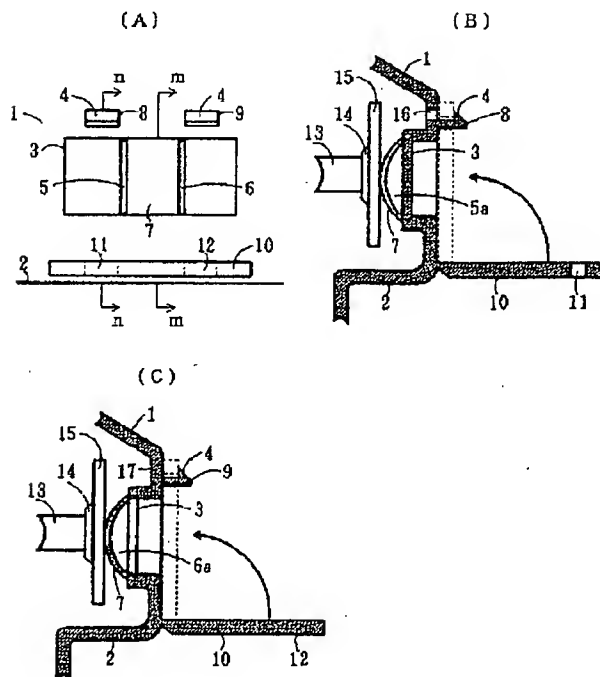
【図３】（Ａ）～（Ｃ）は従来例を示すネック基板取付部の説明図である。

【符号の説明】

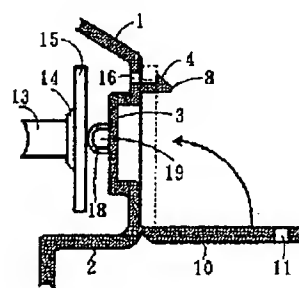
- １ バックカバー
２ 段差部

- ３ 凹部
４ 凹部
５ スリット
５ａ 開口
６ スリット
６ａ 開口
７ 突出部
８ 突起部
９ 突起部
１０ 蓋
１１ 開口
１２ 開口
１３ ネック部
１４ 結合器
１５ ネック基板
１６ 成型用開口
１７ 成型用開口
１８ 突出部
１９ 開口
２５ フロントキャビネット
２６ バックカバー
２７ ＣＲＴ
２８ ネック部
２９ ネック基板
３０ 結合器
３１ スポンジ
３２ 接着剤

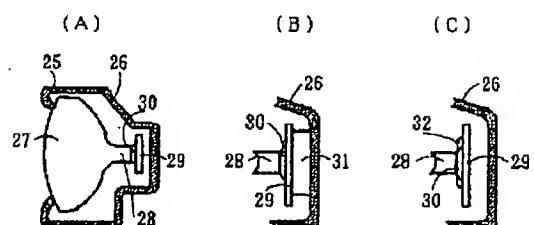
【図１】



【図２】



【図３】



【考案の詳細な説明】

【０００１】

【産業上の利用分野】

本考案は、テレビ受信機等のバックカバーに関し、特にＣＲＴのネックに取り付けられているネック基板の支持構造に関する。

【０００２】

【従来の技術】

最近のテレビ受像機においては、高画質、多機能化に伴いＣＲＴのネック部に取り付けるネック基板の大きさが大きくなり、また、取付部品の増大により重量が重くなっていく傾向にあるため、通常の取り扱いによる衝撃や振動等でネック基板が外れる恐れが多くなって来ている。

図３（Ａ）～（Ｃ）は従来例を示すネック基板取付部の説明図であり、図３（Ａ）はテレビ受像機の側面から見た要部断面図を示し、図３（Ｂ）及び（Ｃ）はネック基板取付部の拡大図を示す。

【０００３】

図３（Ａ）に示すように、フロントキャビネット２５にＣＲＴ２７を固定し、フロントキャビネット２５にバックカバー２６を取り付けてキャビネットを構成し、ネック基板２９に結合器３０を取り付け、結合器３０をＣＲＴ２７のネック部２８に備えられている電極ピンに挿入してネック基板２９を取り付けるようにしていた。

一般にＣＲＴは管軸方向の長さのばらつきが大きく、従ってネック基板を機械的に固定することは困難であり、従って、図３（Ｂ）に示すように、ネック基板２９が脱落しないようにするため、バックカバー２６の内部表面とネック基板２９の間にスポンジ３１等の緩衝材を挿入し、ネック基板２９がネック部２８の電極ピンから外れないように保持するようにしていた。

あるいは、図３（Ｃ）に示すように、接着剤３２等を利用してネック基板２９上の結合器３０からネック部２８の電極ピンが抜けないようにして脱落防止をしていた。

【０００４】

【考案が解決しようとする課題】

従って、スポンジ等を使用する方法では、スポンジが脱落しないようにするため接着剤等を使用してバックカバー内部表面、あるいはネック基板に取り付けるようにするため、耐久性が劣り、スポンジ、あるいはスポンジの取り付け工数が増加するため、コストアップになるといった問題点があった。

ネック基板29上の結合器30とネック部28の電極ピンとを接着剤32で接着する方法では、サービス時にネック基板29が取り外しづらくなり、ネック基板29を破損するといった問題点があった。

本考案は、バックカバーに突出部を一体にして設けて、同突出部でネック基板を支えるようにして、ネック基板の脱落を防止し、蓋を設けて同突出部を外部から保護できるようにして、従来例と同程度のバックカバーの強度を確保すると共に、耐久性を向上させ、コストを低減させることが可能なCRTのネック基板の支持構造を提供することを目的とする。

【0005】**【課題を解決するための手段】**

本願の第1の考案のCRTのネック基板の支持構造は、ネック基板の取付部に面したバックカバーの表面に所定の間隔と長さで、対にして設けたスリットと、同スリットに挟まれた部分を薄肉形状に形成し、バックカバーの内部に突出させた突出部とからなることを特徴とするものである。

本願の第2の考案のCRTのネック基板の支持構造は、前記スリットの長手方向の両端を挟んでバックカバーの表面に、一方に嵌合用の突起部を設け、他方に前記スリット部を隠蔽可能な大きさの、嵌合用の開口を備えた蓋を設けて、同蓋とバックカバーとの連結部を薄肉状に成型し、同部分を折り曲げて前記嵌合用の突起部に前記嵌合用の開口を嵌め込んで、前記スリット部を蓋で覆うことを可能としたことを特徴とするものである。

本願の第3の考案のCRTのネック基板の支持構造は、前記バックカバーの内部に突出させた突出部をアーチ状、あるいは略U字状等の形状に形成したことを特徴とするものである。

【0006】

【作用】

本考案は上記した構成により、ネック基板の取付部に面したバックカバーの部分に、内部に向かった突出部を設けるようにし、同突出部でネック基板を支えるようにし、また、薄肉で形成された同突出部を蓋で保護できるようにしているため、バックカバーとして従来例と同様な強度を確保して、ネック基板の脱落を防止することが可能となる。

【０００７】

【実施例】

図１（Ａ）～（Ｃ）は、本願のＣＲＴのネック基板の支持構造の一実施例を示す説明図である。

図１（Ａ）は、バックカバー１のＣＲＴのネックに相当する部分の正面図である。

バックカバー１にはＣＲＴの管軸方向の長さに対応させるため、ＣＲＴのネックに相当する下側の部分で段差２を設けて、ＣＲＴのネックに相当する部分が背後に突き出した形にし、ＣＲＴのネックの裏面では略平面状になるように成型している。

同平面状に成型した部分に方形状に内部に落とし込んだ凹部３を設け、凹部３に一对のスリット５及び６を所定の間隔で同じ長さとなるようにして設け、スリット５及び６で挟まれた部分を薄肉形状に形成してバックカバー１の内部に突出させ、突出部７を設けている。

【０００８】

凹部３の下方には凹部３の下辺の長さより長くした略方形状の蓋１０をバックカバー１の平面部分に対してほぼ垂直方向に設け、平面部分から所定距離の所に開口１１及び１２を所定間隔で設けている。

また、凹部３の上方には蓋１０を折り曲げた場合、開口１１及び１２と嵌合させることができる位置に突起部８及び９を設けている。

【０００９】

図１（Ｂ）は、図１（Ａ）を切断線ｎ－ｎからみた断面図である。

突出部７は側面からみた形状がアーチ状になるように突出させ、薄肉形状にし

て弾力性をもたせて、CRTの管軸方向の長さのばらつきを吸収できるようにして、先端がネック基板15の表面に接触状態となるように配置している。

ネック基板15には結合器14が半田等で固定されており、CRTのネック部13に備えられている電極ピンに結合器14を挿入し、突出部7の押し付ける力により電極ピンから結合器14が抜けないようにして脱落を防止している。突出部7はアーチ状に機器の内部に挠ませているため、突出部7の側面には開口5aが生じ、開口5aより内部に異物が挿入される恐れもあり、また、突出部7は薄肉形状にしているため、強度的な問題が発生する。

【0010】

そこで凹部3を保護するため、蓋10をバックカバー1と一体にして成型し、蓋10のバックカバー1との接続部を薄肉形状にしてヒンジを形成し、同ヒンジを折り曲げて凹部3を蓋10で覆うことができるようにしている。

突起部8は頭部に抜け防止の突出部4を設け、頭部とバックカバー1との距離が蓋10の肉厚となるようにし、蓋10の開口11を突起部8に嵌合させて蓋10を閉じ、突出部4で蓋10が開かないようにして凹部3部分を強度的に保護するようにしている。

従って、バックカバーとして従来例と同様な強度を確保することができる。

なお、開口16は突起部8の突出部4を成型するため必要となる、抜き型用の開口である。

【0011】

図1(C)は、図1(A)を切断線m-mからみた断面図である。

図1(B)とは切断部分が異なり、右側の凹部3とスリット6の所に形成した開口6a及び嵌合用突起部9を示し、嵌合用開口12及び抜き型用の開口17の位置関係を示しているが、位置関係は図1(B)で示した、各々に対応する凹部3、開口5a、嵌合用突起部8、嵌合用開口11、抜き型用の開口16とほぼ同一である。

【0012】

図2は、本願のCRTのネック基板の支持構造のその他の実施例を示す説明図であり、図1(A)を切断線n-nからみた断面を示す。

前記実施例との相違点は、突出部7の側面から見た形状をアーチ状とする代わりに略U字状の突出部18とした点である。

図1(A)に示すスリット5及び6の長さを短くして図2に示すように、小さなU字状になるように突出部18を形成しても良いし、図1(A)に示すようなスリット5及び6の長さの長さにして、大きなU字状の突出部18を形成するようにしても良い。

19は突出部18を形成することによって生ずる開口を示しており、他の構成は図1の実施例と同様にしている。

図1及び図2の実施例において、バックカバー1を成型する材質としては、薄肉形状に成型可能なもの、例えばポリプロピレン等を用いて成型するようにする。また、蓋10に嵌合用開口11及び12を設ける代わりに、蓋10に嵌合用突起部8及び9を設けて、バックカバー1側に嵌合用開口11及び12をもうけるようにしても良い。さらに、スリット5及び6の上側に蓋10を設け、突起部8及び9を下側に設けるようにしても良い。

【0013】

【考案の効果】

以上説明したように、本考案によれば、バックカバーに突出部を一体にして設けて、同突出部でネック基板を支えるようにし、また同突出部を蓋でカバーするようにしているため、従来と同様なバックカバーの強度を確保することができ、耐久性を向上させ、コストを低減させることが可能なCRTのネック基板の支持構造を提供することが可能となる。